



○紫陽花や今年も来たと杖の父
恐怖伏せベランダの蟬幼子に
下着で潮浴びし親子眠気覚め

とも

○盆の僧世間話をして帰る

文子

店先へあさがお妣はト口箱に
炎天下妹負^{おま}って問屋坂

農子

○迎火に來し亡夫今を何と言う

○寝不足の藍の朝顔二つ三つ

梅雨明や切れ味もよし庭手入れ

初江

梅雨明けの扁桃腺は腫れしまま

朝顔鉢揚げ大丸の中通る

子の時間終わるアナウス盆踊

美貴

○盆提灯買ひに來てる老夫婦

○遠き日の裸電球火取虫

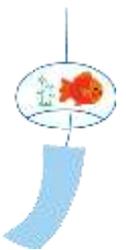
朝顔の命ふるはせ開きけり

丞子

姉のよな叔母の眼差し初の盆

朝顔に意志と目のある蔓の先

ぼっちりのママの浴衣や土曜夜市



思い出の静かに巡る盆提灯
朝顔の青はみ出して夏見舞
待ちかねし冷麵の夏あの店で

郁子

今日の今蟬とりあへず鳴きしきれ

朝顔の静かに咲くや秘事さらし

上手來の瓜の牛馬や庭灯^{あかし}

えり

○鮎鮎や手慣れた母の指の先

もの言わず入道雲を弟と

打水のみる間に乾く昼下り

志津子

朝顔の白が好きなり母は逝く

声を持って亡き人偲ぶ盆の月

朝顔の垣根越しなる良き目覚

一枝

○朝顔の赤に負けずと紅を曳^{べにひ}く

出番待つ青柿三つ次は我

盆踊り天花粉匂う指先や

富子

○盆菓子の色鮮やかに流人墓
川岸を紺の縁どり牽牛花
下駄の音の響く湯の街藍浴衣

千代

みどり

解らぬを分かったふりする梅雨の妻
朝顔を見てから寝る子はネット顔
死に急ぐ地球の声か蝉しぐれ

秀美

○夏の果少女のおさげ髪了る

○針置けば唄ふレコード夜の秋

晩夏光更地に過去の栄華かな



味元 昭次 作品

戦争はクソと吐き捨つ生身魂
朝顔が青空に向く今日を生く
生身魂昔の恋の話など

★次回市民句会

【開催日時】

令和五年九月二十七日(水)

午後一時十五分〜午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にご参加いただけます